

# 時事新報

明治十八年四月二日  
(西曆一千八百八十五年)  
第九百三十二號  
日曜日休刊

報東京  
京橋區役所

○東京府連  
其區域化家屋建築區域内ニ於テ既設ノ建物ヲ改造シ  
或ハ家屋ノ形狀ヲ變換スルコト際ニ實地着手ノ後又ハ通  
平落成ニ臨ミ屬意差出候者間々有之存者明治十六年九  
月甲第五十六號布達ニ照シ候間已チナラズ其後續續  
進セテ改造シ命ズル等ノ場合ニ於テ不都合不少候儀必  
ズ着手前屬意差出可請檢査官右區域内地主并家屋所有  
者ニ告示スベシ此旨相達候事  
明治十八年四月一日  
警備總監 大邊貞清  
東京府知事 芳川圓正

## 時事新報

### 朝鮮國ノ獨立

我輩ハ前日ノ紙上ニ於テ朝鮮ノ事大黨ガ國辱ヲ忍テ  
自カカ他ノ屬邦タル甘んズルハ畢竟其當路者ガ貴國  
ノ地位ヲ侵シテ其僥倖ヲ無理ニ守ラントスルノ熱心  
ニ出テタルモノニシテ遂ニ昨年十二月變亂ノ禍根ヲ  
シトノ次第ヲ開陳シタリ(三月卅一日時事新報)然レ  
昨年ノ變亂タルヤ獨立黨ノ失敗アリトハ疑ハレハ唯  
支那兵ノ干渉ニ由リテ其黨ノ士人ガ終チ善クセザリ  
迄ノコナレト事大黨ノ首領タル閔氏以下ノ六大臣  
ハ之ガ爲ニ其身ヲ亡シ爾來金允植領允中ノ流カ  
朝ニ立テ事ヲ執ルモノト爲リテ政府ノ景況ヲ察スル  
事大ノ空氣ハ却テ變亂以前ヨリモ穢濁ニ改マリタル  
ノ、如シ蓋シ金魚薩氏ハ本來自國ノ事大黨員ニハ非ズ  
唯時ノ勢ニ制セラレテ自家ノ節ヲ立ル得ズ僥倖不  
以テ陳餘ナガラモ閔薩氏ノ驕尾ニ附シタルモノトシ  
シテ既ニ彼ノ金朴ノ一類ガ政權ヲ得タルヒキモ金  
黨ノ如キハ驕驕ニ任セラレタル程ノ大黨ナレバ其本  
心ヨリ事大ノ主義ニ非ズルヤ明ナリ左レバニヤ變亂ノ後  
今日ニ至ルマデ支那ノ關係ニ於テ支那人ハ恰モ薩  
風ヲ裝ヒ武威ヲ以テ朝鮮國ニ臨ムノ勢ハアレハ朝鮮人  
ハ唯其威ニ伏スルノモノニシテ其心ニ服スルモノ非ズレバ  
表面ニ事大ノ儀式ヲ呈スルモノ内治ノ内實ニ於テハ他  
支那ノ干渉ヲ免レントシテ寧ろ不平ヲ鳴ス者アリト  
云フ今其實情トシテ一例ヲ舉レバ三月十日閔氏切下  
人ガ誤テ支那兵ヲ傷ケタルガ如キ其過誤ハ一時ノ過  
ナルモノニシテ因テ彼類ノ身ノ累ヲ爲シタル實末トシテ  
閔氏ノ驕流ニシテ事大ノ外ニ身ヲ立ルノ道ナカレバ  
トマシテ評セラルル其人ニ於テスラ實且支那人ノ  
種知能ハ堪ヘズシテ獨立ノ正義ニ屬シタルモノト見  
可レ得テ氣風既ニ斯ノ如クナル其土ニ愛シ又大義  
ノ一顧ナルモノアリ君ガ朝鮮國ノ大權ヲ奪ヒテ去  
テ行フタルハ世ニ聞レモナキコトニシテ中絶ニシテ  
國ノ身ヲ爲リテト雖モ清年ノ變亂中閔氏又支那ニ  
君ノ知遇ヲ辱ケ其害國ヲ蒙リタルモノハ國內ニ實

チ以テ計ルノ數アリ現ニ今日忠清全羅慶尙ノ三道ニ  
ル所南人黨(即チ大院君黨)ハ八萬人ニ下ラズ此黨ノ  
者共ハ素ヨリ頑固至極ノ人物ニシテ外國アルヲ知ラザ  
ルノモノ朝鮮國ヲ知ラズ唯各自ノ頭上ニ大院君アル  
ノモノ知テ進退運動セシモノナルガ一朝コシテ其本  
心無上ノ首領ヲ失ヒ扱之レテ奪ヒ去リタルハ何モ  
ナラズト尋レバ隣國ノ支那人ナリ又近來外國交際  
新説ヲ聞ケバ凡ソ獨立國タルモノハ國ノ大小強弱  
ナク各自主ノ權アリテ他ヨリ來リテ自國君王ノ父ヲ捕  
ヘ去ルガ如キ無禮無法ハ行ハレ可クザル等ナリト云  
ヘ左レバ吾々カ本尊視シタル大院君ノ支那ニ納閉セ  
レタルハ朝鮮國ノ獨立ヲナラザルガ故ナリ獨立ハ國民  
ノ精神強弱チ以テ成リ得ベシ一國獨立シテ再ビ本尊ヲ拜  
スルノ日アル可ク奇ニ獨立ノ主義ヲ執ル人ナレバ雖  
彼レニ論テ吾々吾々友ナリ政府獨立チ欲スルカ吾  
レ之ニ從ハシ況ヤ彼ノ金玉均朴孝徐光範徐載弼一  
ガ微頭微尾其主義ヲ執テ動カズ獨立ノ二字ノメ  
チ犧牲ニシテ其政權ヲ握リタル日ニモ私ノ舊怨ヲ忘  
テ公ニ大院君奉迎ノ事ヲ建議シタルガ如キハ公明正大  
大丈夫ノ事ヲ行フタル人物ナリ今是等ノ名士ガ一時  
名ヲ蒙ルモノ吾々心ニ於テ決シテ之ヲ忌マズ其尾  
附シテ支那ノ驕驕ヲ脱シ以テ吾ガ志ヲ達セザレバ熱心  
奔走スル者蓋シ盛ナリト云フ  
抑モ去年十二月變亂ノ後朝鮮國ハ有名無實ニシテ朝野  
ノ政權モ人心モ都テ支那ニ包圍セラレタルノ勢ヲ成  
シ又其勢ノ事實ニ現シタルモノヲ聞見シタルハ是  
ハ唯一時ノ假相ニシテ實ニ三箇月ヲ經テ國民全體  
ノ氣風ヲ觀察スレバ隱然トシテ其内部ニ獨立心ノ發生  
ヲ窺ヒ見ル可ク蓋シ朝鮮人モ亦阿蘭ノ人類ニシテ一  
國ノ國民ナリ國民ニシテ其國ノ獨立チ欲スルハ殆ト其天  
性トモ名ク可キモノナレバ今日朝鮮ノ事相ハ獨り朝鮮  
ニ限リテ偶然ニ然ルモノニ非ザルナリ然レバ則チ去年  
ノ變亂ハ一國ノ亂ナリトシテ雖ヒ之ニ由テ事大黨ノ首領  
ヲ除クト共ニ事大ノ氣風ヲ一掃シ始メテ國民獨立ノ  
精神ヲ發動シテ其本色ヲ現ハスノ端ヲ開ケタルハ故  
國ノためニ謀テ轉禍爲福ト稱ス可キノ、但シ古今朝鮮  
國ニ於テ漸ク發生シテ僅クシタルモノハ唯獨立ノ精神  
ニシテ其獨立ノ手段ニ至ラハ今尙無ナリト云ハザ  
レテ得ズ即チ國ニ富源アリテ富貴ヲ見ズ、兵士アリテ  
兵器ナシ、政府アリテ政法ナシ、文人アリテ學士ナシ、  
復タ如何トモス可クズ今後チ案スルモノ何レモ事  
ニ着手スルモノ初ニ於テハ必ズ外國ノ力ヲ借用スル外  
ナカレ可ク世界廣シ富強國多シ雖レカ進テ之ニ手ヲ出  
スモノア我輩ハ刮目シテ之ヲ觀ル者ナリ

○天童に供す 大日本農會頭北白川宮より、の程三田  
○青龍場産の菓糖類等の種子を取換へ天童に供へ奉り  
○大山陸軍卿 福國縣行幸の供事を命ぜられたる大山  
陸軍卿及隨員の一行は明後四日横濱發の汽船に搭して  
出發の音あり  
○クランド將軍は病狀 同氏夕瘧を病みて危篤ありと  
の事先よりの電報に見えその後久しく其消息を聞か  
ざりしは近著の米國新聞に載せたる三月三日紐約發の  
報を見るに氏の病氣頗る軽からぬ体よて食事も平日  
の如くならず(氏は病む所の癰は口中の左の方に發し  
るものなり)之が爲め朋友親戚等來りて病を訪ふ  
の多く氏の居住する第六十六番は何時ともなく車馬の  
雜沓を極めたり左れ共同氏は一切來客を謝絶し之を  
面謁せず尤同氏は自らも客に接する能はざる程にお  
すとは思へども其死期の數月の中にあると知りて生前  
に其着手したる南北戰爭記の脱稿を見んと欲するもの  
から來客に應接して無益其精力を費さんよりは病間  
あるときは著書に従事するの便れるに如かずとて斯く  
面接を斷りたるなり云々と見え又翌四日同地發報に  
はクランド氏は今朝通例の時刻に眠り覺したる其病狀  
少しく間あるを以て再び眠らざり正午頃まで起ると  
なかりしが起床の後衣服を改め整理して食事を爲し容  
色平怡にして常の如く著書の業に取掛りたり暫くあり  
て戶外に聲高く鈴を鳴して音問ふものあるに付き取次  
の少女が出て、來意を問へば數名の人が一封印の書狀  
を右に少女に渡し直に之を將軍の御手前へ呈すべし  
とて出行き依て少女の其言の儘に之を將軍に渡しけ  
るに將軍は之を受取りて封皮を見れば電報とありけり  
を徐るに封を開きながら心の中に思ふやう是又例の病  
氣見舞ならん由きとして徒らに際と取らするもの  
なと叫びつゝ對し開きて讀下せば計りざりき此電報の  
只今華盛頓より送したるものにて此度國會に於テク  
ランド氏退職大將となすこと議決し大統領に於て之  
に開印したりといは旨と簡略に報し越せしものなりしか  
ば同氏の之を見るや歡喜は色忽ち面に見れば早速夫人  
を呼びて右の電文を渡したり將軍は身久しく千軍萬  
馬の中を奔走して日々に多く驚心之事を見聞したれ共  
神色依然として平日に如くなるや常とせしが今其國人  
が將軍の功勞を感りて此恩謝の意志と表したるを聞  
ては此處になき感動と受けたるもの、如し此より後  
將軍の病時と退て快方に赴く様子ありと見たり然  
るに先頃同氏が危篤なりとの電報は三月六日と以て華  
盛頓を發したるものをば此後病勢再び増長しく危篤  
と稱するに至りしもの左れ共今便には六日以後の新  
聞は到着せざるゆゑ之を詳にしがされ共醫師ワグ  
ラス氏の言にも瘵は到底治し難き病なるに付き氏の全  
癒は六ヶ數かるべしと云ひしよしなれば今後の容体如  
何なるべきか心許なく思はるるなり

○司法書務細  
法檢少書記官  
倉富三郎の官  
察細則取調委  
等審視中村與  
取調るよ付去  
り  
○故田中善藏  
政の末年より  
し屢々藩主に  
走して他は藩  
ふ及び大に人  
生を東都に出  
に不幸にして  
吉田冬島督召  
め相計て碑と  
文と本社又送  
○東京府會  
野)之監費費  
木費之二三議  
しも終に少數  
第三次會に移  
給百圓は五番  
は過分をば  
同)此等の愚  
と同一般ある  
て其待遇に至  
一に月給五十  
の點に意見は  
圓に事務掛の  
來此病の神經  
係て聞所  
亦是等と云  
員兼務の上置  
者れ爲の上置  
故に本員は權  
るなりと述べ  
甚きに付毎項  
採決する事  
六十圓と減す  
七十四圓給木  
同)第二次會  
願若くは同院  
事なり併し此  
已むと得ず此  
今俄然非常  
加し貴國患者  
其體に据置く  
し本員も充分  
ハ稍や四十圓  
希望せざる所  
信するなり六  
なりと信す自  
にして其品格  
せしむる者た  
減額したりと  
の不便と感ぜ  
度とし改革  
始り此改革如  
(填山)六十一  
一畫の改革説  
く二次會にも  
論辨したる病  
と防ぐよ止ま

F U J I M : C R O S A F E T Y A N